



## 投げたら投げ返してくれる温かさを感じて

校長 ほうらい きしこ 寶來 生志子

「服を持ってきてくれた人は、こちらに入れてください。」

「ご協力ありがとうございます。」

朝の昇降口。バイオリンが奏でる音楽の中、「服のチカラプロジェクト」の活動として、6年生がいなくなった服の回収をしていました。6月、ユニクロ青葉台店の方のお話を聞き、自分たちも取り組んでみたいと考えて始めた服の回収。おうちの方が大きな袋を抱えて持ってきてくださる姿もありました。



「ぼくたちの努力がみんなに伝わっていて、とても楽しく服を集められました。放送や手紙などの宣伝をしたことが今日の服の多さにつながったと思います。」「みんなで考えたり取り組んだりした結果だと思いうとすごくうれしいです。達成感がありました。」

次は、近隣の学校にも協力してほしいと働きかけを始めています。

午後からは、北八朔公園愛護会の方が来てくださいました。地域の中山さんの竹林から一緒に切り出した竹を小さく割るやり方を教えてくださいました。竹トンボにするためです。

「竹がなかなか割れなくて不思議に思っていたら、一瞬で割れる方と割れない方があることを教えてくださいました。とても竹に詳しいということがわかりました。」「竹トンボを作って、竹トンボの楽しさや竹のすごさや面白さを教えたいです。」



今回紹介した活動だけでなく、投げたら投げ返してくれる地域や保護者の皆様の温かさが子どもたちの成長を支えてくださっていると思います。いつも本当にありがとうございます。

子どもたちは、22日のスポーツフェスティバルに向けて、スローガンの「絆を深める恩田のスポフェス」を目指し頑張っています。コロナ禍で地域の皆様には見ていただくことができないのが残念ですが、保護者の皆様、応援をよろしくお願いします。